

企業版ふるさと納税で 1千万円の寄附

経済建設常任委員会
白鳥賢委員長

議第5号 令和6年度 三条市一般会計補正予算

Q ふるさと三条応援寄附金推進事業費について、1千万円の寄附者である株式会社アイモバイルはどのような会社か。三条市と接点はあるのか。

A ふるさと納税サイト「ふるなび」の運営のほか、トラベル事業などを行っている。接点については、三条市が平成30年12月から「ふるなび」を利用しており、現在に至るまで同社と契約している。

Q 企業版ふるさと納税の募集サイトへの掲載内容などについては、毎年見直しを行っているのか。

A 三条市と企業2者で3者契約を締結し、寄附者となる企業の開拓等を行っている。募集サイトについては、3者で打合せをしながら定期的に修正を加えている。

Q かわまち交流拠点施設に設置している募金箱について、6月定例会の経済建設常任委員会で、「募金箱の製作費は約3万円で、今後数を増やす

ことを検討する」と答弁があったが、その後検討はしたのか。

A 前回の指摘を踏まえ、水防学習館の脇に2つ目の募金箱を設置した。



付託された全議案について、全員異議なく原案の通り決定すべきものとした。



定すべきものとした。

令和5年度のしただ米の 輸出力は12.5トン

経済建設分科会 白鳥賢主査

Q しただ米市場拡大推進協議会負担金について、毎年度増額しているが、取り組みの成果は。

A 海外については、輸出力が令和4年度の9トンから令和5年度は12.5トンに増加するとともに、新たに1法人への受注に結び付いた。国内については、東京や大阪で開催された展示会等に出展したほか、地域内で地元の飲食店と連携したイベントを実施し、多くの来場があった。さらに、独自の認証制度を創設するなど、**ブランディング**にも取り組んでいる。

Q 鳥獣被害防止対策について、毎年被害に遭い、農作物の栽培を諦めた人もいる。もっと徹底した対策は取れないか。

A 地球温暖化や生活様式の変化によって鳥獣の生息域が拡大しており、イノシシとサルについてはさらなる取り組みが必要と考えている。イノシシについては、引き続き、捕獲技術向上の講習会を実施しながら、地域と共に対

決算審査特別委員会 審査レポート

子宮頸がんワクチン 接種者数が増加

総務文教分科会 野崎久雄主査

Q 子宮頸がんワクチンは、接種する子どもに加え、保護者の理解も必要である。接種率の向上にどう取り組んでいるか。

A 対象者への通知にリーフレットを同封しているほか、キャッチアップ接種については、二十歳を祝う会でチラシを配布するなど、さまざまな機会を捉えて働きかけている。令和6年度は7月時点で令和5年度の接種者数を大きく上回り、情報発信の効果が現れているものと捉えている。

Q 救急出動状況について、一般負傷と急病は、出動件数と搬送人員のいずれも令和4年度より増加している。救急出動の増加でどのような影響が生じているか。

A 救急車の不在時間が長くなると、直近の拠点ではなく隣の拠点から出動するケースも多くなるため、現場到着に若干の時間を要し、その分傷病者への対応も遅れることになる。

応じたい。

Q 橋梁維持費について、今後修繕が必要な橋梁はどのくらいあるか。

A 令和元年度から令和5年度までの5年間で、市内すべての橋梁の点検を行い、修繕が必要と判定された151橋のうち、現在までに62橋の修繕が完了し、残りは89橋である。

認定第1号および認定第2号について、いずれも全員異議なく認定すべきものとした。



決算審査特別委員会 採決の様子

市議会の模様は、インターネットで録画中継をご覧ください。



スマホかタブレットで
スキャン！



Q そのような事態にどう対策を講じているか。

A 救急車の適正利用について、広報さんじょうなどにより市民の協力をお願いしている。

Q 不登校児童生徒支援員を増員した効果は。

A すべての希望する中学校に週1日以上支援員を配置することができた。週1日でも寄り添ってくれる支援員がいることで、安心して登校できたという子どももいた。

認定第1号について、賛成多数で認定すべきものとした。

燕三条・下田アウトドライナー など、新規事業の成果を問う

市民福祉分科会 馬場博文主査

Q 中央商店街のアーケードが解体され、今後さらに人通りが少なくなることを危惧している。もっと地元の人たちと話し合い、人を集めるための取り組みを提案するなど、市が主導することも必要ではないか。